K110.1
294

先哲格言

修身要訓

中村鼎五編

首卷

137

大日本教育會書籍館
一八函
二架
三〇號
七冊

K110.1
294

中村敬五編

先哲格言 脩身要訓 首卷

東京　中近堂藏

例言

此巻ハ小學初等科初級兒童ノ爲メニ編輯セルモノナリ故ニ之ヲ誦讀セシムルコトヲ要セスト雖能ク兒童ヲシテ之ヲ記憶セシメサレハ恐ラクハ其功ナカラン兒童ヲシテ記憶セシムルニハ之ヲ口誦セシムルニ如クハナシ故ニ今其蒐輯

スル所ノ語ハ寧ロ口誦シ易キニ過ルトモ難キニ失セス

一此巻ニ列擧セル語ハ皆先哲ノ格言ナレトモ兒童ヲシテ口誦セシムルニ便ナラシメンカ爲平易ノ口調ニ譯セルモノナリ

先哲格言

脩身要訓首巻

近江　中村弘五編

第一章

○朝おきてハ、まづ手あらひ、口そゝぎ、容儀を、ととのふべし

○父母ふ對してい、かたちを正しくして、うやまひをわするべからず

○師よりうけたる教をバ、心をつくしてならふべし

○友ふまじをるふい、よき者をゑらびて、親しくすべし

○みちにて長上よあいバ、かならず禮をべし

第二章

○出づるときい、かならず父母ふ告げ

○かへりていかならず父母ふまみゆべし

○あそぶよい、所をさだめ、かへるにを、時をすごすべからず

○田畠に入りて、物をあらすべからぞ

○みだりに樹木を、折るべからず

第三章

○人に對してい言ぞふも、振舞よも、禮をあつくすべし

○禮ある者い、人にうやまいれ、禮なき者い、人ふいやしまる

○年うへの人い、すべてうやまふべし

○年少き者い、すべて愛すべし

○人の惡事い、かたるべからず

第四章

○學問い、たゞ勉強によりて、すゝむ

○事いみな、たこたるよりして、やぶる

○幼時につとめて學ばざれば、年長じて必恥あり

○人の名をなすい、みな勉強のしるしなり

○父兄の教をまもれば、あやまちなし

第五章

○かりそめにも、人を欺くべからず

○人と約束せしことい、そむくべからず

○よき友とあそべば、あしきことをなさずして、己に益あり

○よき友を、もとむるにい、まづ己を、正しくすべし

○あやまちと知ることと

あらい、すみやかふ改むべし

第六章

○師の教い、心をしづかにして、きくべし

○書物をよむときい、心を専にし、手ふ物を弄ぶべからず

○書物い大切にして、汚すべからず

○少しの時間にても、いたづらふ、ついやすこと

なかれ

○人學ぶときハ、君子となり、學ばざるときハ、小人となる

先哲格言 脩身要訓 首巻 終

官許
東京中近堂

此ノ實印ヲ捺レタルモノヲ以テ本書ノ眞版ト認ムルモノナリ

明治十八年一月二十二日版權免許
同年三月出版

定價金四錢

編者　滋賀縣士族　中村鼎五

出版人　東京府士族　中島精一
東京芝區三田國町三番地

發兌　東京銀坐二丁目　中近堂
大阪備後町四丁目　中近堂支店
名古屋東本重町一丁目　中近堂支店

賣捌

東京通三丁目　丸善商社
仝芝三島町　山中市兵衛
仝本町　金港堂
仝通二丁目　稲田佐兵衛
仝通一丁目　北畠茂兵衛
仝馬喰町　石川治兵衛

賣捌

東京横山町　出雲寺萬次郎
仝油町　水野慶次郎
大阪備後町　梅原龜七
仝南久宝寺町　前川善兵衛
豊河原町　大黒屋太郎右衛門
仝寺町　田中治兵衛

先哲格言

修身要訓

中村鼎五編

一

大日本教育會書籍館
一八函
二架
三〇號
七册

Z57
378

K110.1
106
1